

第34回知的財産管理技能検定
【2級（管理業務）実技試験】

（はじめに）

すべての問題文の条件設定において、特に断りのない限り、他に特殊な事情がないものとします。また、各問題の選択枝における条件設定は独立したものと考え、同一問題内における他の選択枝には影響しないものとします。

特に日時の指定のない限り、2019年5月1日現在で施行されている法律等に基づいて解答しなさい。

1 甲は、自己がした靴底の滑り止めとなる突起の形状に関する発明Aについて、2019年10月15日に特許出願Pをした。特許出願Pの出願時の明細書及び特許請求の範囲の請求項1には、発明Aが記載されていた（請求項は1のみ）。甲が、出願審査請求をするかどうかを判断するために先行文献調査を行ったところ、次の事実1～3がわかった。

事実1 乙が創作者及び出願人であり、2019年1月10日に意匠登録出願され、2019年10月10日に設定登録された意匠登録Qには、登録時の図面に特許出願Pの図面に記載された発明Aと同じ靴底の突起の形状が記載されていた。なお、意匠登録Qに係る意匠掲載公報（文献1）は、2019年10月30日に発行されていた。

事実2 丙が発明者及び出願人であり、2018年4月25日に特許出願され、早期審査により設定登録され2019年9月25日に特許公報（文献2）が発行された特許Rには、登録時の明細書にのみ、発明Aが記載されていた。

事実3 甲が考案者及び出願人であり、2019年4月1日に実用新案登録出願され、2019年10月10日に設定登録された実用新案登録Sには、設定登録時の明細書及び実用新案登録請求の範囲の請求項1に発明Aと同じ内容の考案Bが記載されていた。なお、実用新案登録Sに係る実用新案掲載公報（文献3）は、2019年10月30日に発行されていた。

以上を前提として、問1～問6に答えなさい。

問1

特許出願Pについて、文献1を引用して拒絶されないと考えられる場合は「○」を、拒絶されると考えられる場合は「×」を、解答用紙に記入しなさい。

問2

問1において、拒絶されない又は拒絶されると判断した理由として、最も適切と考えられるものを【理由群I】の中から1つだけ選び、対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

第34回知的財産管理技能検定
【2級（管理業務）実技試験】

問3

特許出願Pについて、文献2を引用して拒絶されないと考えられる場合は「○」を、拒絶されないと考えられる場合は「×」を、解答用紙に記入しなさい。

問4

問3において、拒絶されない又は拒絶されると判断した理由として、最も適切と考えられるものを【理由群I】の中から1つだけ選び、対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

問5

特許出願Pについて、文献3を引用して拒絶されないと考えられる場合は「○」を、拒絶されないと考えられる場合は「×」を、解答用紙に記入しなさい。

問6

問5において、拒絶されない又は拒絶されると判断した理由として、最も適切と考えられるものを【理由群I】の中から1つだけ選び、対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

【理由群I】

- ア 拒絶理由には該当しないため
- イ 新規性（特許法第29条第1項各号）の規定に違反するため
- ウ 進歩性（特許法第29条第2項）の規定に違反するため
- エ 先願（特許法第39条）の規定に違反するため

第34回知的財産管理技能検定
【2級（管理業務）実技試験】

② 出版社であるX社は、商品A「電子出版物」について雑誌名「Moon」として販売している。X社の知的財産部の部員甲が先行商標調査をしたところ、Y社が、商標「月」、指定役務B「電子出版物の提供」について、商標権Mを有していることがわかった。商標権Mに係る商標登録出願の出願日は2018年12月7日、登録日は2019年7月8日、公報発行日は2019年8月8日であり、商標権Mは現時点まで使用されていないこともわかった。甲は、X社の知的財産部の部長乙に対し、調査結果を受けて、発言1～2をしている。なお、商品及び役務の区分について、商品Aは第9類、指定役務Bは第41類に属する。

発言1 「商標『月』との類否の関係で、雑誌名『Moon』を商品Aに使用することについては、全く問題ありません。」

発言2 「指定役務Bとの類否の関係で、雑誌名『Moon』を商品Aに使用することについては、全く問題ありません。」

また、甲が更に調査を行ったところ、X社のグループ企業であるW社が、商標「Moon」、指定役務Bについて、商標権Nを有していることがわかった。この結果を受けて、甲は、乙に対して、2019年11月8日に発言3をしている。なお、商標権Nに係る商標登録出願の出願日は2018年11月2日、登録日は2019年6月3日、公報発行日は2019年7月3日である。

発言3 「商標権Mに対しては、不使用取消審判、商標権Nの存在を理由とした登録異議申立て、商標登録無効審判のどの措置もとれません。」

以上を前提として、問7～問12に答えなさい。

問7

発言1について、適切と考えられる場合は「○」を、不適切と考えられる場合は「×」を、解答用紙に記入しなさい。

問8

問7において、適切又は不適切であると判断した理由として、最も適切と考えられるものを【理由群Ⅱ】の中から1つだけ選び、対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

【理由群Ⅱ】

- ア 称呼が同一であり、商標が類似し問題があるため
- イ 外観が同一であり、商標が類似し問題があるため
- ウ 観念が共通であり、商標が類似し問題があるため
- エ 商標が類似せず問題がないため

第34回知的財産管理技能検定
【2級（管理業務）実技試験】

問9

発言2について、適切と考えられる場合は「○」を、不適切と考えられる場合は「×」を、解答用紙に記入しなさい。

問10

問9において、適切又は不適切であると判断した理由として、最も適切と考えられるものを【理由群Ⅲ】の中から1つだけ選び、対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

【理由群Ⅲ】

- ア 商品、役務の区分が異なる場合には、商品と役務との間で類似する場合がないため
- イ 商品と役務とが異なり、商品と役務との間で類似する場合がないため
- ウ 商品と役務との間で類似する場合があるため

問11

発言3について、適切と考えられる場合は「○」を、不適切と考えられる場合は「×」を、解答用紙に記入しなさい。

問12

問11において、適切又は不適切であると判断した理由として、最も適切と考えられるものを【理由群Ⅳ】の中から1つだけ選び、対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

【理由群Ⅳ】

- ア 期間の関係から登録異議申立てをできるため
- イ 期間の関係から商標登録無効審判を請求できるため
- ウ 期間の関係から不使用取消審判を請求できるため
- エ 期間の関係からどの措置もとることはできないため

第34回知的財産管理技能検定
【2級（管理業務）実技試験】

3 広告会社X社の営業部に勤務する甲が、コンテンツの利用方法について法務部の部員に質問をしている。発言1～3は甲の発言である。

発言1 「クライアントが、この度カフェを開店することになりました。カフェの宣伝として、アマチュアのバンドを招いて、若手作曲家乙が映画のテーマソングとして作曲した曲を演奏してもらってライブを行うことを企画しています。ライブでは客は無料で演奏を聴くことができ、バンドのメンバーには演奏料を支払う予定はありません。この場合、著作権法上、問題はありませんよね。」

発言2 「営業部全体で著作権の勉強会をしています。著作権侵害に関する最高裁判決の全文を、部員全員に配布するため、全員分の数のコピーをしようとしています。この場合、著作権法上、問題はありませんよね。」

発言3 「私は、ピアニスト丙のファンなので、自分のブログで、昨年録音された市販のCDに収録されている丙の演奏したモーツァルトの曲が流れるようにしたいと考えています。ブログは、営利を目的とせず個人的な趣味でやっているものです。この場合、著作権法上、問題はありませんよね。」

以上を前提として、問13～問18に答えなさい。

問13

発言1について、適切と考えられる場合は「○」を、不適切と考えられる場合は「×」を、解答用紙に記入しなさい。

問14

問13において、適切又は不適切であると判断した理由として、最も適切と考えられるものを【理由群V】の中から1つだけ選び、対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

問15

発言2について、適切と考えられる場合は「○」を、不適切と考えられる場合は「×」を、解答用紙に記入しなさい。

問16

問15において、適切又は不適切であると判断した理由として、最も適切と考えられるものを【理由群V】の中から1つだけ選び、対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

問17

発言3について、適切と考えられる場合は「○」を、不適切と考えられる場合は「×」を、解答用紙に記入しなさい。

問18

問17において、適切又は不適切であると判断した理由として、最も適切と考えられるものを【理由群V】の中から1つだけ選び、対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

第34回知的財産管理技能検定
【2級（管理業務）実技試験】

【理由群V】

- ア 著作権及び著作隣接権を侵害しないため
- イ 著作権を侵害しないが、著作隣接権を侵害するため
- ウ 著作隣接権を侵害しないが、著作権を侵害するため
- エ 著作権及び著作隣接権を侵害するため

第34回知的財産管理技能検定
【2級（管理業務）実技試験】

4 問19～問33に答えなさい。

問19

文房具メーカーX社の知的財産部の部員甲が、新しく発売を予定している商品Aについて事業部の部長に説明をしている。ア～エを比較して、甲の発言として、最も適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア 「商品Aの形態については、意匠法と不正競争防止法により保護を受けることができます。意匠登録をしておけば、わが社の商品の形態に類似する形態を持つ模倣品を排除することが可能です。また、不正競争防止法の場合には、実質的に同一の形態についての模倣品を排除することができます。」
- イ 「今回発売する商品Aの製品寿命は6年程度だと聞いていますので、他社によってデッドコピーされた場合に、意匠権を取得せずとも、不正競争防止法によって十分対応できると思います。」
- ウ 「商品Aの形態については、意匠法及び不正競争防止法において、差止請求及び損害賠償請求が可能です。但し、不正競争防止法の場合は、理由の如何を問わず、刑事上の措置をとることはできません。」
- エ 「他社が製造した商品Aのデッドコピーである商品Bを卸売業者が転売した場合に、卸売業者に重過失がないときでも、不正競争防止法によって卸売業者の商品Bの販売を止めることができます。」

問20

X社の知的財産部の部員甲が特許情報検索について説明している。ア～エを比較して、甲の考えとして、最も不適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア 他社の特定製品に関する特許出願を検索するには、その製品の製品名ではなく一般名称を用いて検索式を作成するとよい。
- イ 特許出願に備えて先行技術調査をする場合は、すべての出願を調査するために必要な出願書類を作成後、出願予定日前日に先行技術調査をすると完全に漏れのない調査が可能になる。
- ウ 検索対象の技術について、同義語、類義語が複数あるときは、これらの語をキーワードとして論理和（OR）を用いて検索式を作成するとよい。
- エ IPC（国際特許分類）、FI（ファイル・インデックス）などのコード体系を用いた検索と、フリーキーワード検索には、それぞれ長所及び短所がある。より検索漏れが少ないという長所を有するのは、コード体系を用いた検索である。

第34回知的財産管理技能検定
【2級（管理業務）実技試験】

問21

X社は、提携している喫茶店「ABC」で提供されている紅茶について、パッケージに「ABC」の文字を記載して発売した。すると、商標「ABC」、指定商品「紅茶」について、商標権Mを有するY社から、X社に対して、商標権Mを侵害する旨の警告書が送られてきた。ア～エを比較して、X社の考えとして、最も適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。なお、商品「紅茶」と役務「飲食物の提供」は非類似の関係にある。また、喫茶店の役務は「飲食物の提供」である。

- ア パッケージの「ABC」の文字を茶色に変更して、販売することとした。
- イ 喫茶店の店名を指定商品「紅茶」に使用しているにすぎないので、商標権Mの侵害にならないと回答することとした。
- ウ 喫茶店「ABC」は、現時点では周知ではないが、商標権Mに係る商標登録出願前から使用しているので、先使用権を主張することができると思った。
- エ Y社の警告書に反論できないと考え、「紅茶」への商標「ABC」の使用を中止し、Y社に商標権Mについての使用許諾を求めることとした。

問22

精密機器メーカーX社の知的財産部の部員が、製品A、Bに関する社内の各会議に出席している。ア～エを比較して、部員の発言として、最も不適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

ア 営業部の営業会議での発言

「昨年より販売をしていた製品Aは、他社の特許権を侵害していることが判明しました。その特許を無効にすることはできず、ライセンスを受けることも困難です。従って、製品Aの販売の中止を検討すべきです。」

イ 製品開発部の技術検討会議での発言

「ライバルメーカーY社と包括的なクロスライセンスをした場合、営業活動はしやすくなりますが、一方で、製品設計の自由度が高くなるわけではありません。従って、クロスライセンスはしないこととしました。」

ウ 事業部の事業戦略会議での発言

「製品Bの市場参入については見送ることとなりました。しかし、製品Bの開発にあたり多数の特許出願をしています。従って、このまま権利化を進めて、他社への特許ライセンスや譲渡を検討してみることも考えられます。」

エ 本社経営戦略室の企画会議での発言

「IPランドスケープを実施して、自社及び他社の技術及び事業の強み弱みを分析したところ、この分野のわが社の知的財産、技術力、及びマーケットシェアは他社よりかなり劣っているようでした。従って、この事業への参入には慎重になるべきです。」

第34回知的財産管理技能検定
【2級（管理業務）実技試験】

問23

機械部品メーカーX社と機械メーカーY社は、X社が有する特許権Pに関するY社への有償の譲渡契約を締結することを検討している。ア～エを比較して、譲渡契約に関して、最も適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア 譲渡契約に、特許権Pの移転登録手続の履行期日及びそれに対する対価の支払期日が同日に規定されていた場合、X社は、支払期日が到来しても対価が支払われなければ、特許権Pの移転登録をしない旨を主張することができる。
- イ 譲渡契約に、X社が期限日までに特許権Pの移転登録を行う旨の規定があるが期限日までに移転登録が行われない場合には契約を解除できる旨の規定がなくとも、Y社は、催告なしに譲渡契約を解除することができる。
- ウ 譲渡契約に、債務不履行に基づいて損害が発生した場合には損害賠償を請求することができる旨を規定しなければ、X社は、Y社の債務不履行に基づく損害賠償を請求することはできない。
- エ 譲渡契約に、契約内容にない事項について相手方から損害を受けた場合には損害賠償を請求することができる旨を規定しなければ、X社は、Y社の不法行為に基づく損害賠償を請求することはできない。

問24

ア～エを比較して、意匠法の保護対象となる意匠として、最も適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア グリップが特徴的な万年筆の全体の形状
- イ 画面に表示されるアイコンによりタブレット端末を操作するというコンセプト
- ウ 複数の塗料を混ぜて開発された絵の具の色
- エ 粉状のうまみ調味料

第34回知的財産管理技能検定
【2級（管理業務）実技試験】

問25

X社の開発担当者は、新品種の「いちご」について、種苗法に基づく品種登録を検討している。ア～エを比較して、品種登録手続に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア 品種登録の出願者は、原則として、出願1件毎に所定の出願料を納付しなければならない。
- イ 農林水産大臣は、品種登録出願について拒絶しようとするときは、その出願者に対し、拒絶理由を通知し、相当の期間を指定して、意見書を提出する機会を与えなければならない。
- ウ 品種登録の出願は、当該品種の育成を完了してから1年以内に行う必要がある。
- エ 農林水産大臣は、品種登録の出願を受理したときは、当該出願について出願公表をしなければならない。

問26

部品メーカーX社は、新規な部品Aの開発を行った。X社は、機械メーカーY社と技術提携をし、部品Aを用いたロボットBの共同開発をすべきか否かを社内の各会議で検討している。ア～エを比較して、X社の知的財産部の部員の考えとして、最も不適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア Y社と共同で特許出願をして特許権を取得した場合、契約で特段の規定を設けなくても、わが社は、Y社の同意を得ることなく自由にその特許権を他社にライセンスすることができる。
- イ Y社との共同開発が適切かどうか、IPランドスケープにより技術的側面、知的財産的側面からだけでなく、ビジネス的な側面からも検討を行って結論を出すべきである。
- ウ Y社と共同開発を開始する前に、わが社は単独で、部品Aに関する特許出願しておくべきである。
- エ Y社と共同開発したロボットBについて共同で特許出願をして特許権を取得した場合、わが社でも製造できるようにするために、契約で特段の規定を設けておく必要はない。

第34回知的財産管理技能検定
【2級(管理業務)実技試験】

問27

文房具メーカーX社は、独自に開発した新製品であるボールペンAの製造販売を開始しようとしている。ア～エを比較して、X社の知的財産部の部員甲の発言として、最も適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア 「他社の特許権侵害を避けるための特許クリアランス調査は、既に特許された発明についてのみ調査すれば十分であり、出願公開された発明すべてを調査する必要はありません。」
- イ 「ボールペンAが侵害していると思われる特許権を発見しても、権利者から警告がない限り差止請求や損害賠償請求をすることはできないので、警告があるまでは製造販売を継続しても大丈夫です。」
- ウ 「他社の特許権侵害により損害賠償請求が認められるためには、故意又は過失が要件とされ、特許クリアランス調査をすると他社の特許権を故意に侵害したとされるので、そのような調査はしないほうがよいです。」
- エ 「ボールペンAが侵害していると思われる実用新案権を発見しても、その権利が出願日から9年10カ月たっている場合は、もう2カ月待てば権利が切れるので、その後に製造販売を開始すれば大丈夫です。」

問28

2018年12月30日に発効したTPP11協定(環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定)に伴う著作権法改正に関して、X社の法務部の甲が発言をしている。ア～エを比較して、最も適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア 「方式主義が採用され、著作権の登録をしなければ自らの著作権を主張することはできません。」
- イ 「放送の保護期間の終期は改正されず、その保護期間は、放送が行われた日の属する年の翌年から起算して50年です。」
- ウ 「レコードの保護期間の終期は、レコードに音が最初に固定された日の属する年の翌年から起算して70年となりました。」
- エ 「親告罪とされていた著作権等侵害罪について、すべて非親告罪となりました。」

第34回知的財産管理技能検定
【2級（管理業務）実技試験】

問29

時計メーカーX社は、形状が特徴的である置時計Aを開発して、国内のみにおいて意匠権Dを取得した。また、置時計Aを販売したところ人気商品になった。最近、外国で置時計Aと色は異なるが、形状が類似した置時計Bが販売されており、日本のY社が置時計Bを国内に輸入しようとしているという情報をX社が入手した。X社の知的財産部では、置時計Bを入手し検討したところ、Y社の置時計Bを輸入する行為が意匠権Dを侵害するおそれが高いとの結論になった。ア～エを比較して、X社の知的財産部の部員の考えとして、最も適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア X社は、意匠権Dを有するが、置時計Aと置時計Bとは色が異なるので、置時計Aについて立体商標としての商標権を有していなければ、置時計Bの輸入差止めをすることはできない。
- イ 税関は意匠権Dの侵害品を没収、廃棄することはできないが積戻しはできるので、X社は税関長に対して認定手続をとるよう申し立てることが望ましい。
- ウ 意匠権Dの侵害が国内で発生していない段階でも、侵害のおそれがある置時計Bが国内に輸入される見込みがあれば輸入差止めの申立てができるので早急に対応するのが望ましい。
- エ X社は、意匠権Dを侵害するおそれの高い置時計Bの輸入に対し、特許庁長官に証拠を提出し、認定手続をとるよう申し立てることができる。

問30

スポーツ用品メーカーX社は、独自に開発したゴルフクラブAの製造販売を開始したところ、Y社が、ゴルフクラブAに係る特許権Pを取得していたことがわかった。ア～エを比較して、X社の知的財産部の部員甲の考えとして、最も不適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア 特許権Pの侵害とならないように、ゴルフクラブAの設計変更を検討すべきである。
- イ 特許権Pを侵害するかどうかの判断は技術及び法律の知識が必要となるため、より正確な判断を行うためには、弁理士の鑑定や特許庁の判定を求めることを検討すべきである。
- ウ X社に先使用权がある場合には、Y社に対して対価を支払うことによりゴルフクラブAの製造販売を継続することができるので、先使用权の存在について確認すべきである。
- エ 特許権Pを無効にするための先行技術調査を行うべきである。

第34回知的財産管理技能検定
【2級(管理業務)実技試験】

問31

ア～エを比較して、職務発明に関して、最も適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア X社の従業者甲は、現在、Y社に出向しY社から給与の支払を受けて、Y社から職務に関する指示を受け、Y社の施設及び費用を用いて研究を行っている。甲が、Y社の業務範囲に属し、かつ現在の職務に関する発明をした場合、X社の職務発明となる。
- イ X社の従業者乙は、退職している。乙が、X社の業務範囲に属しかつ乙の在職時の職務に関する発明について、X社を退職した後に完成させ特許権Pを取得した場合、X社は乙から特許権Pの譲渡を受ける権利を有する。
- ウ X社の従業者丙は、1年前に退職した。丙が、X社の業務範囲に属しかつ丙の在職時の職務に関する発明について、X社を退職する2カ月前に自ら特許出願をし、その後特許を受けていた場合、X社は、丙の許諾がなくても当該特許発明を実施することができる。
- エ X社の従業者丁は、自らの職務発明について特許権Qを取得し、ライバル会社W社に特許権Qを譲渡した。X社の職務発明規程に「職務発明についての特許を受ける権利または特許権はX社に譲渡される」旨の記載がない場合、X社は、継続して当該職務発明に係る事業を実施することはできるが、W社に対してライセンス料を支払わなければならない。

問32

化学品メーカーX社は、新規な素材aに係る特許出願Aをし、その後、素材aを改良した素材bについて、特許出願Aに基づいて国内優先権主張をして特許出願Bをした。特許出願Bの特許請求の範囲には、素材aに係る発明と、素材bに係る発明と、素材a及び素材bの両方の上位概念である素材cに係る発明が記載され、実施例として素材a及び素材bが記載されていた。特許出願Bが登録された後、Y社が素材bと同一の素材Pの製造販売を開始したので、X社は、Y社に対する権利行使を検討している。ア～エを比較して、最も適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア 素材Pの製造販売に対する差止請求をするにあたっては、素材bに係る特許権と、素材cに係る特許権のいずれの特許権に基づいて権利行使をしてもよい。
- イ 素材bに係る特許権に基づいてY社に権利行使をする場合には、特許出願Aに係る優先権証明書をあらかじめY社に提示して警告する必要がある。
- ウ 素材bに係る実施例は特許出願Bにおいて追加されたものであるから、素材bに係る特許権の効力は、素材Pに及ばない。
- エ 特許出願Aは、その出願日から1年4カ月経過後に取り下げられたものとみなされるため、取り下げられたものとみなされた後は、素材aに係る特許権の効力は、素材Pに及ばない。

第34回知的財産管理技能検定
【2級（管理業務）実技試験】

問33

帽子メーカーであるX社は、製造販売をしている帽子Aに対して、Y社から意匠権Dを侵害しているとの警告を受けている。ア～エを比較して、X社の知的財産部の部員甲の考えとして、最も不適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア 意匠原簿を閲覧して、意匠権Dが存続しているか、Y社が真の権利者であるかを確認する。
- イ 帽子Aが、意匠権Dに係る登録意匠と同一又は類似する範囲に含まれるかを弁理士に鑑定依頼をする。
- ウ 意匠権Dに係る意匠登録出願前に、意匠権Dに係る登録意匠と同一又は類似する意匠が掲載された刊行物が発行されているかを確認する。
- エ 意匠権Dに係る意匠登録出願後に、意匠権Dに係る意匠を知らないで、独自に、帽子Aが商品化されていた場合には、意匠権の効力が及ばないので、帽子Aに関する資料の有無を確認する。

第34回知的財産管理技能検定
【2級（管理業務）実技試験】

5 問34に答えなさい。

問34

X社は、2018年8月10日にした特許出願Aについて、2019年2月15日に早期公開の請求をして、当該特許出願Aは2019年3月20日に出願公開がされた。この場合、特許出願Aの出願審査請求ができる期限日の属する年及び月は、西暦何年何月になるか求めて、算用数字で解答用紙に記入しなさい。

第34回知的財産管理技能検定
【2級（管理業務）実技試験】

6 次の会話は、医療機器メーカーX社の研究者甲と知的財産部の部員乙との知的財産権に関する条約についてのものである。問35～問37に答えなさい。

甲 「Y国は、パリ条約に加盟していると聞きました。わが社はY国で特許権を取得することはできますか。」

乙 「はい、Y国はパリ条約の同盟国ですから特許権を取得できます。パリ条約に加盟している国の国民に対しては、自国民と同一の保護及び 1 を与えるようパリ条約に規定されています。これを内国民待遇といいます。」

甲 「Y国はTRIPS協定にも入っているようですね。」

乙 「TRIPS協定では、内国民待遇に加えて 2 が定められています。また、TRIPS協定は 3 協定の一部ですから、何か問題があれば 3 の紛争解決手段を利用することができます。」

問35

空欄 1 に入る最も適切な語句を【語群VI】の中から選び、解答用紙に記入しなさい。

問36

空欄 2 に入る最も適切な語句を【語群VI】の中から選び、解答用紙に記入しなさい。

問37

空欄 3 に入る最も適切な語句を【語群VI】の中から選び、解答用紙に記入しなさい。

【語群VI】

最恵国待遇 無方式主義の原則 WIPO 権利範囲 WTO 法律上の救済

第34回知的財産管理技能検定
【2級（管理業務）実技試験】

7 X市では、X市の市民がX市内で撮影した写真を募集し、写真コンテストを開催することになった。優秀作品はX市のウェブサイトに掲載することを予定している。X市の広報部の部員甲と乙が、応募された写真について会話をしている。問38～問40に答えなさい。

甲 「自ら応募してくるわけなので、ウェブサイトに掲載することについて、応募要項に記載していなくても、応募者から許諾を得る必要はありませんよね。」

乙 「この場合、応募者の許諾を得る必要 。」

甲 「この写真には数名の人が写っています。有名人が写っているわけではないので、これらの人の氏名や住所が特定されなければ問題ありませんよね。」

乙 「いいえ、が問題となる可能性があります。」

甲 「写真に題名を付して応募してもらっています。この写真はとても美しいのですが、写真と題名が合っていないと思います。少しでもあれば、題名を変えても問題ありませんよね。」

乙 「いいえ、が問題となる可能性があります。」

問38

空欄 に入る最も適切な語句を【語群Ⅶ】の中から選び、解答用紙に記入しなさい。

問39

空欄 に入る最も適切な語句を【語群Ⅶ】の中から選び、解答用紙に記入しなさい。

問40

空欄 に入る最も適切な語句を【語群Ⅶ】の中から選び、解答用紙に記入しなさい。

【語群Ⅶ】

パブリシティ権 肖像権 があります はありません
同一性保持権 翻案権 公表権

【第34回知的財産管理技能検定】

【2級 実技】

番号 正解

問1 ○

問2 ア

問3 ×

問4 イ

問5 ×

問6 エ

問7 ×

問8 ウ

問9 ×

問10 ウ

問11 ×

問12 イ

問13 ×

問14 ウ

問15 ○

問16 ア

問17 ×

問18 イ

問19 ア

問20 イ

問21 エ

問22 イ

問23 ア

問24 ア

問25 ウ

問26 ア

問27 エ

問28 イ

問29 ウ

問30 ウ

問31 ウ

問32 ア

問33 エ

問34 (西暦)2021(年)8(月)

問35 法律上の救済

問36 最恵国待遇

問37 WTO

問38 があります

問39 肖像権

問40 同一性保持権